

平成 23 年 8 月 28 日 (日)

恵解山古墳特別講演会

恵解山古墳第 11 次発掘調査の成果

財団法人長岡京市埋蔵文化財センター

中島 皆夫

1. はじめに

乙訓地域の立地と環境

山城盆地の主要古墳群

恵解山古墳の位置



桂川右岸

1 長岡・山崎

2 向日

3 横原・山田

桂川左岸

4 嵐峨野

北山・東山

5 岩倉

6 八坂

7 深草

8 桃山

山科

9 中臣

宇治川流域

10 宇治川流域

木津川右岸

11 久津川

12 青谷

13 椿井・平尾

木津川左岸

14 市坂

15 吐師

16 下狛

17 飯岡

18 興戸

19 大住

20 男山・美濃山

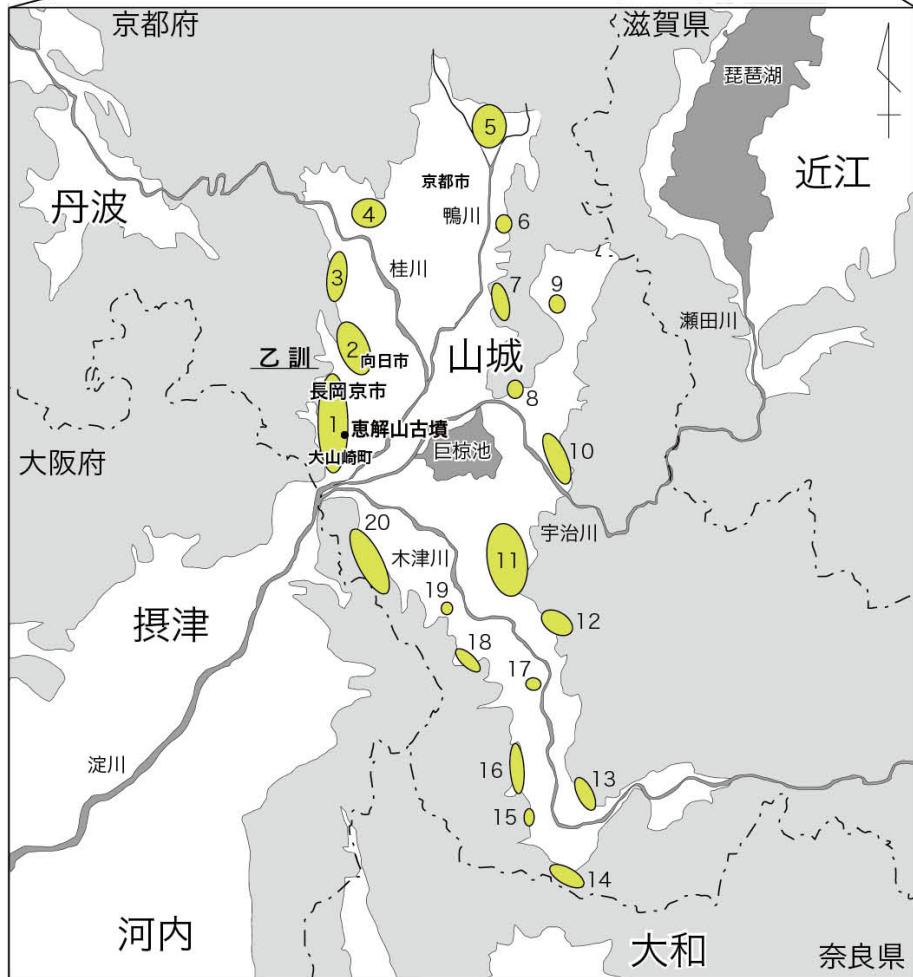


図1 山城盆地における主要古墳群の分布

(『京都府の首長墓』 京都府埋蔵文化財研究会 (2000) をもとに作成)

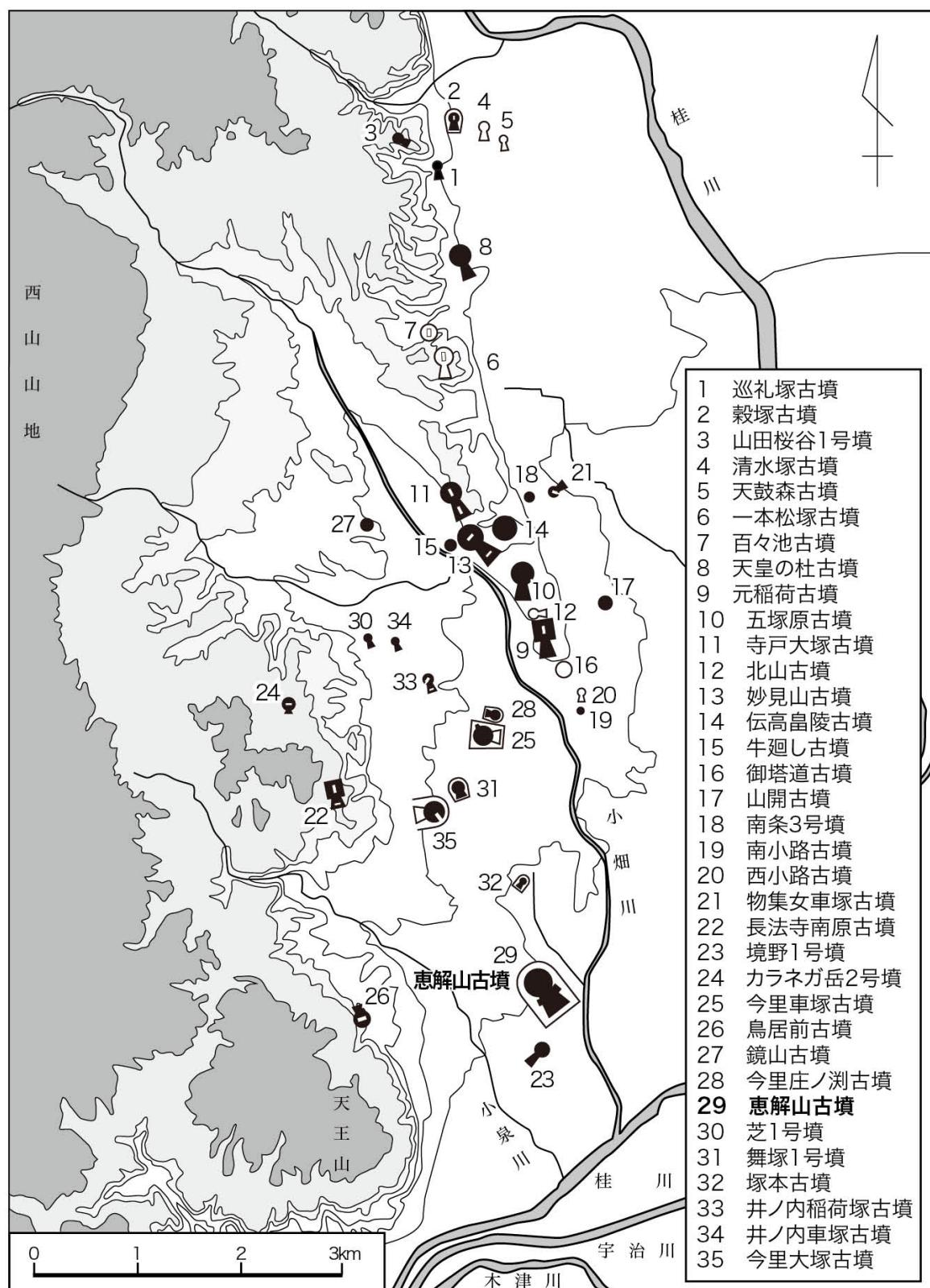
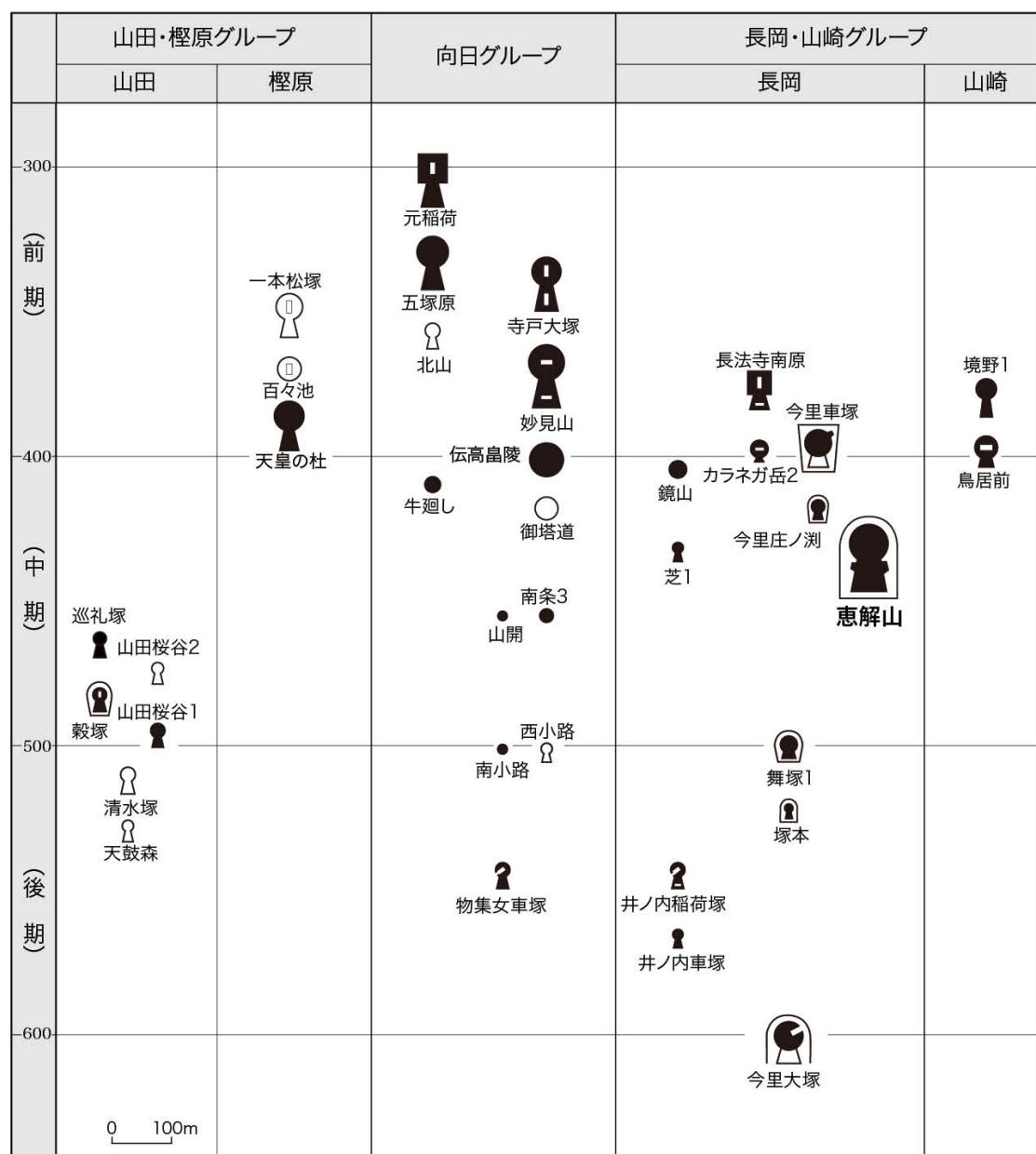


図2 乙訓地域における主要古墳の分布

(「乙訓地域」『京都府の首長墓』京都府埋蔵文化財研究会(2000)をもとに作成)



白抜きは墳形・規模が未確定なもの

埋葬施設が豊穴系(石槨・粘土槨・木棺)

埋葬施設が横穴式石室

※ 図2・3に掲げたのは主要な古墳であり、長法寺七ツ塚古墳群など後期の古墳群および群集墳は表示していない。

図3 乙訓地域における主要古墳の変遷

(「乙訓地域」『京都府の首長墓』京都府埋蔵文化財研究会(2000)をもとに作成)

2. 恵解山古墳の発掘調査でわかったこと

- ・規模：全長約 128 m、後円部径約 78 m、前方部幅約 76 m
 - ・周濠：盾形周濠か（非常に浅い）　・造り出し：前方部の東西にあり、規模が異なる
 - ・外表：3段築成、葺石、埴輪列

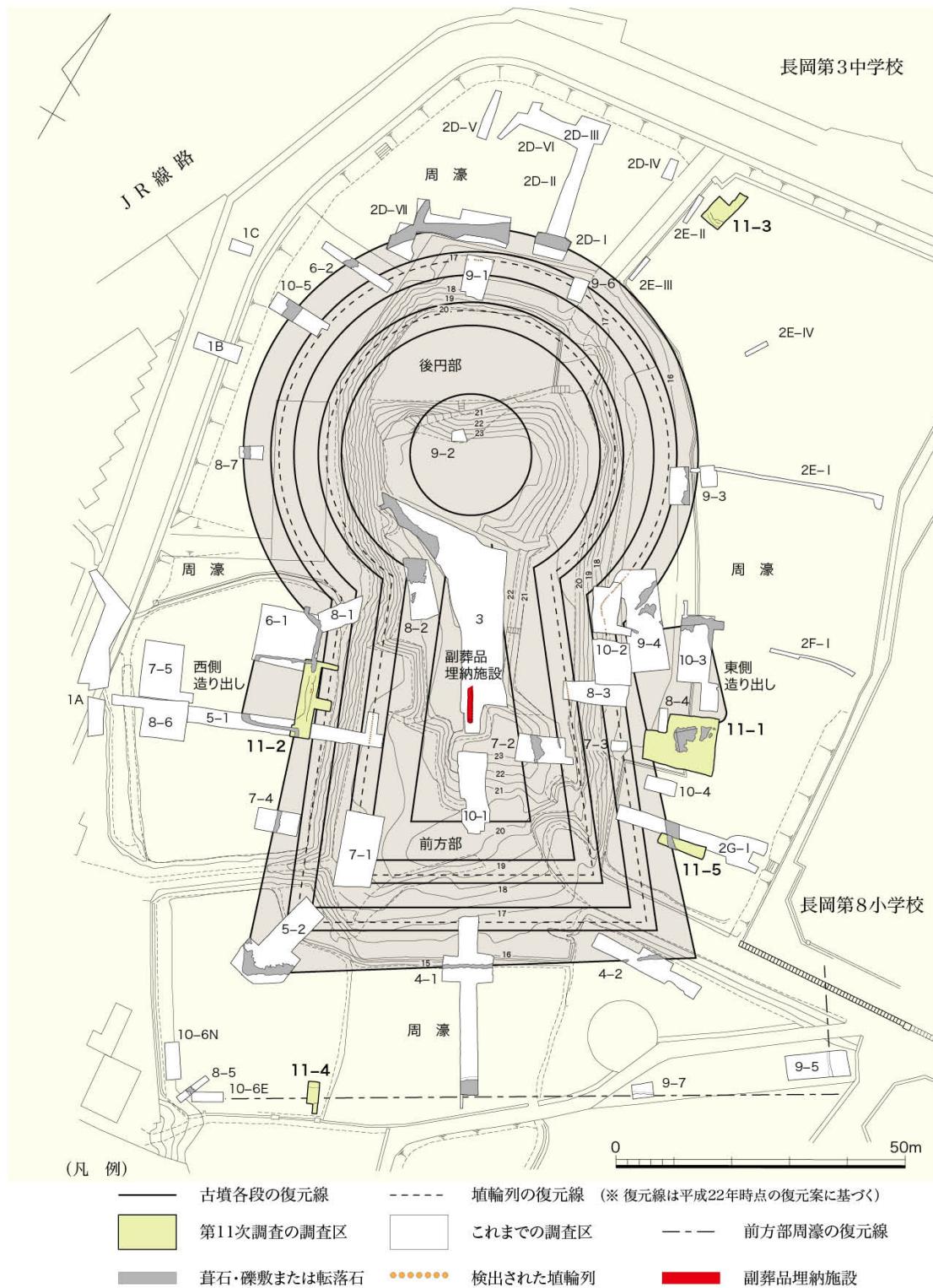


図4 恵解山古墳の発掘調査区と墳形復元（1/1000）

- ・埋葬施設：豎穴式石槨か（結晶片岩、石英斑岩）長持形石棺か（竜山石）
- ・前方部副葬品埋納施設：木櫃（鉄刀・鉄剣・短剣・短刀・鉄鏃・刀子・三叉ヤスなど）
※既知の埋納施設の他にも存在が推定される（ミニチュアの鉄製品、石製模造品）
- ・埴輪：普通円筒埴輪、朝顔形埴輪、形象埴輪（家・蓋・盾・草摺・鞆・壺・船・水鳥）

調査 次数	調査 年度	主体部	副葬品 埋納施設	後円部	前方部	造り出し	周濠	文献
踏査	1924年 (大正13)	・豎穴式石 槨の可能性		・葺石と埴輪の存在				府史蹟勝地 報告第6冊 (1925年)
分布 調査	1967年 (昭和42)			・測量調査による墳形と規模の概要				府概報 1968 (1968年)
第1次	1975年 (昭和50)							市報告 第2冊 (1976年)
第2次	1976年 (昭和51)			・北側裾部	・東側裾部		・周濠	市報告 第3冊 (1977年)
第3次	1980年 (昭和55)	(結晶片岩・ 管玉)	★埋納施設 の発見	★西側くびれ部の上段斜面				市報告 第8冊 (1980年)
第4次	2003年 (平成15)				★前面裾部の基底石		・外周の南 辺	市報告 第46冊 (2004年)
第5次	2004年 (平成16)			★南西隅裾部、西側 裾部の基底石 ★西側の中段平坦面 と埴輪列	★西側造り出し の発見			市報告 第47冊 (2005年)
第6次	2005年 (平成17)	(結晶片岩)		・西側くびれ部の裾部 ・北西側裾部	★西側造り出し 北辺の基底石			市報告 第48冊 (2006年)
第7次	2006年 (平成18)			・東側の上段斜面、 中段平坦面 ★西側裾部の基底石				市報告 第50冊 (2007年)
第8次	2007年 (平成19)	(竜山石)	(鉄製農工 具類)	★西側くびれ部の上段斜面の基底石、中段 平坦面 ・西側裾部	★東側の中段平坦面と 埴輪列		・外周の南 西部	市報告 第52冊 (2008年)
第9次	2008年 (平成20)	(結晶片岩、 石英斑岩)		★北側下段平坦 面と埴輪列 ・東側裾部	★南東側の下段平坦 面と埴輪列	★東側造り出し の発見	・外周の南 東辺、南 辺	市報告 第54冊 (2009年)
第10次	2009年 (平成21)		(石製模造 品)	★東側くびれ部下段平坦面と埴輪列 ・北西側裾部		・東側造り出し 周辺の砂礫	・外周の南 辺	市報告 第56冊 (2010年)
第11次	2010年 (平成22)			・東側裾部の基底石	・東側造り出し 周辺の砂礫 ★西側造り出し の埴輪列	・外周の北 東部、南 辺		市報告 第60冊 (2011年)

表1 恵解山古墳の発掘調査履歴

6

3. 第11次調査の成果から～東西で異なる造り出し～

西側造り出し

接続位置：くびれ部から約6m前方部寄りに接続

規模：接続部の幅12.5m、周濠への張り出し9.7m、高さ1m未満

埴輪列：東辺を画す埴輪列を確認

特記事項：裾部から盛土で構築・北側接続部に谷状の葺石・谷状葺石面からミニチュ

ア壺が出土・北側の周濠から導水施設と考えられる家形埴輪が出土



図5 恵解山古墳の西側造り出し (1/250)

東側造り出し

接続位置：くびれ部近くに接続するとの考えられる

規 模：接続部の幅約 21 m、周濠への張り出し約 16 m、高さ不明

埴 輪 列：不明

特記事項：造り出しの周辺に礫敷を伴う・南側区画石列から水鳥形埴輪が出土

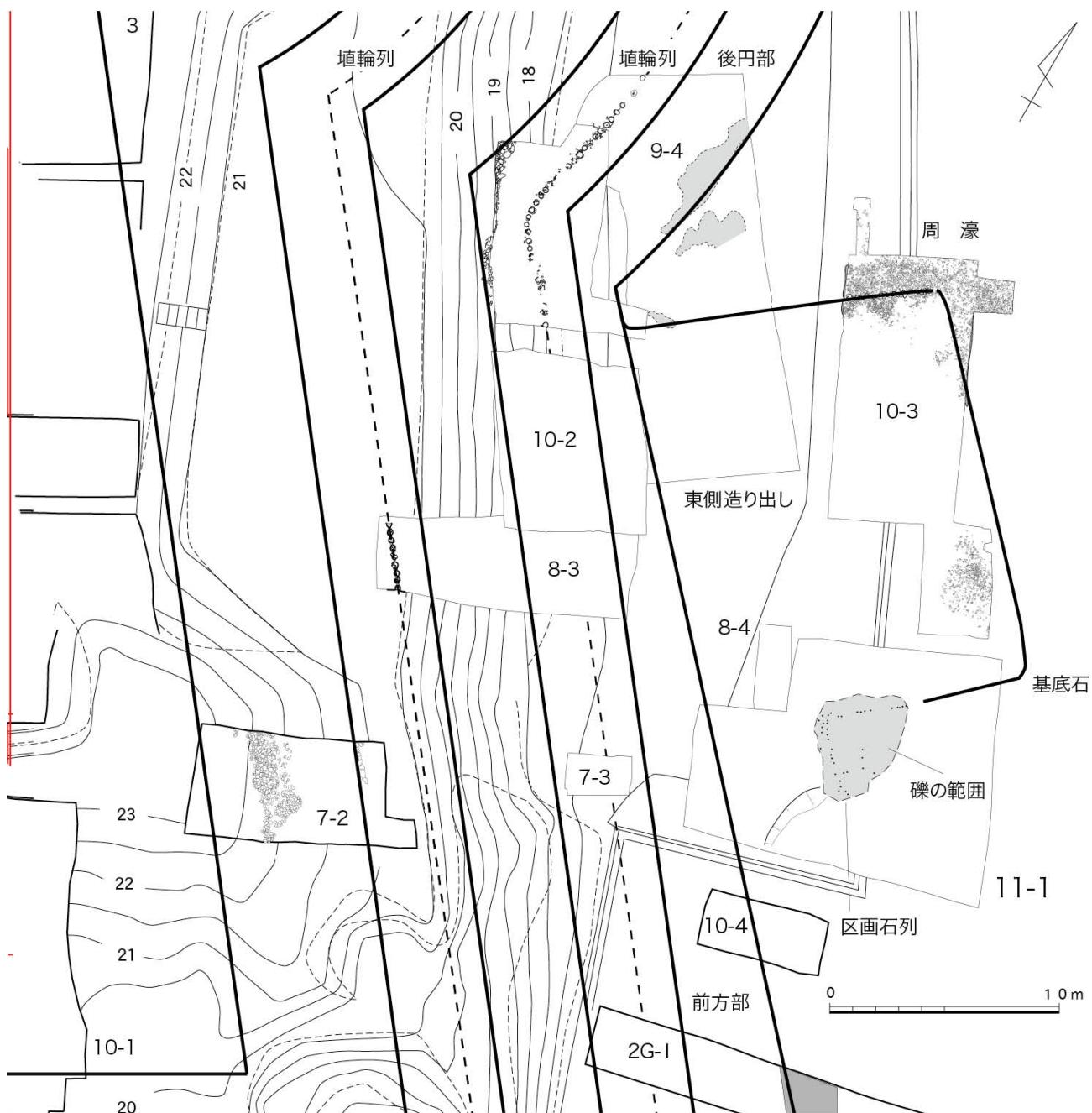
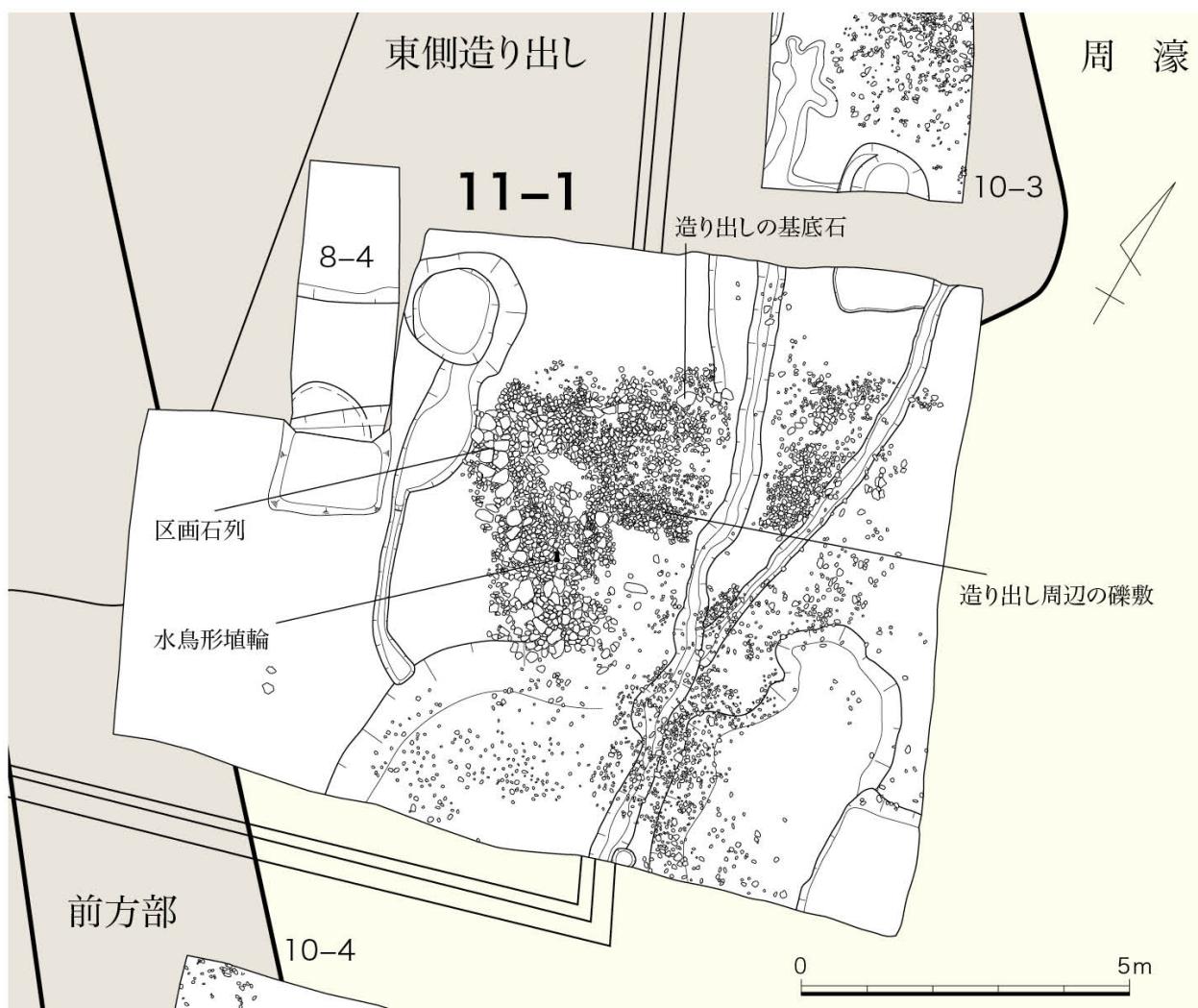


図 6 恵解山古墳の東側造り出し (1/250)



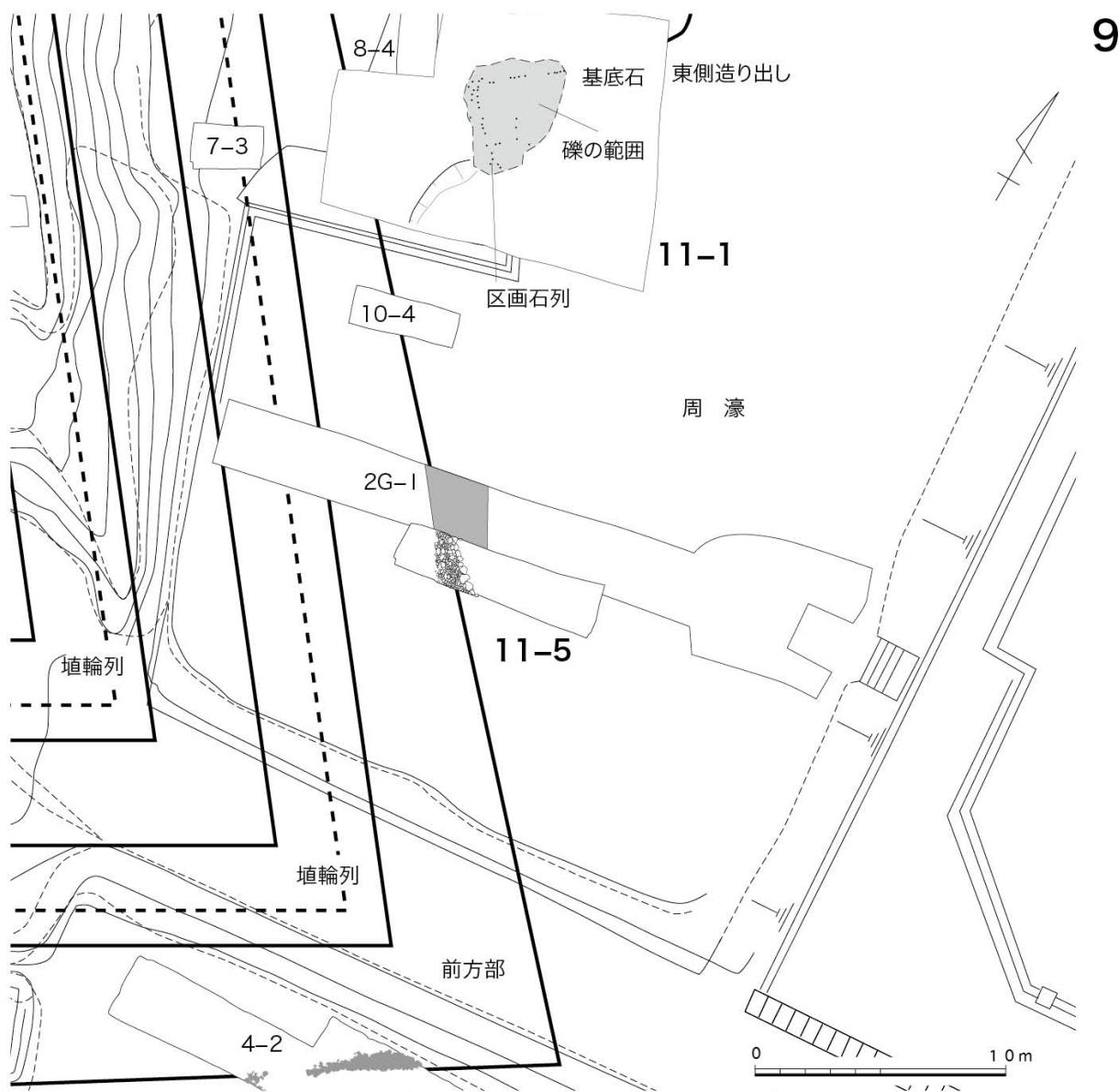


図9 恵解山古墳の前方部東側 (1/250)

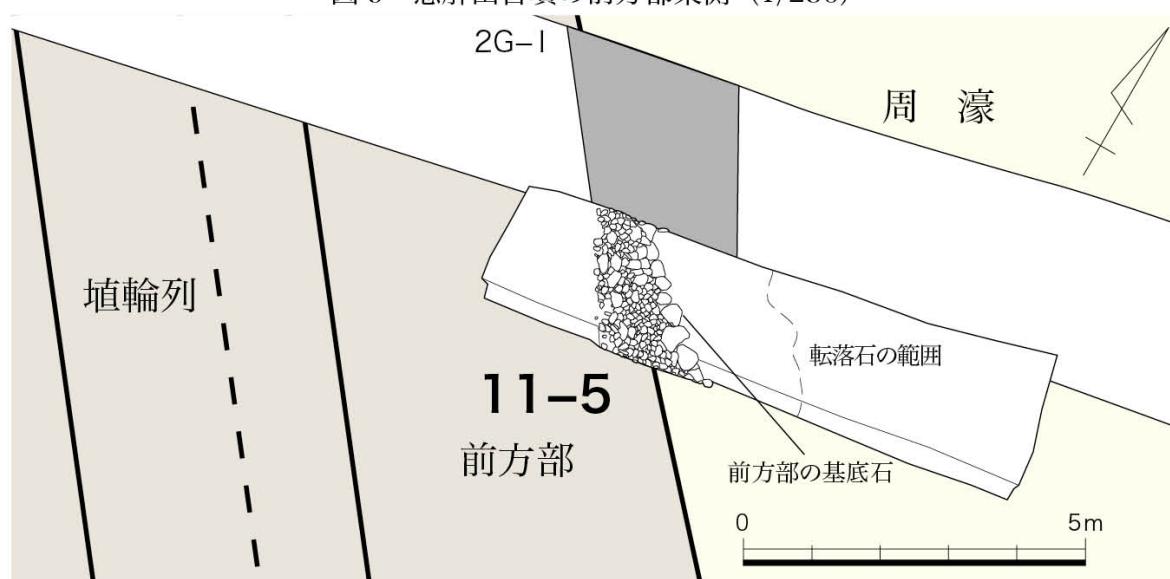


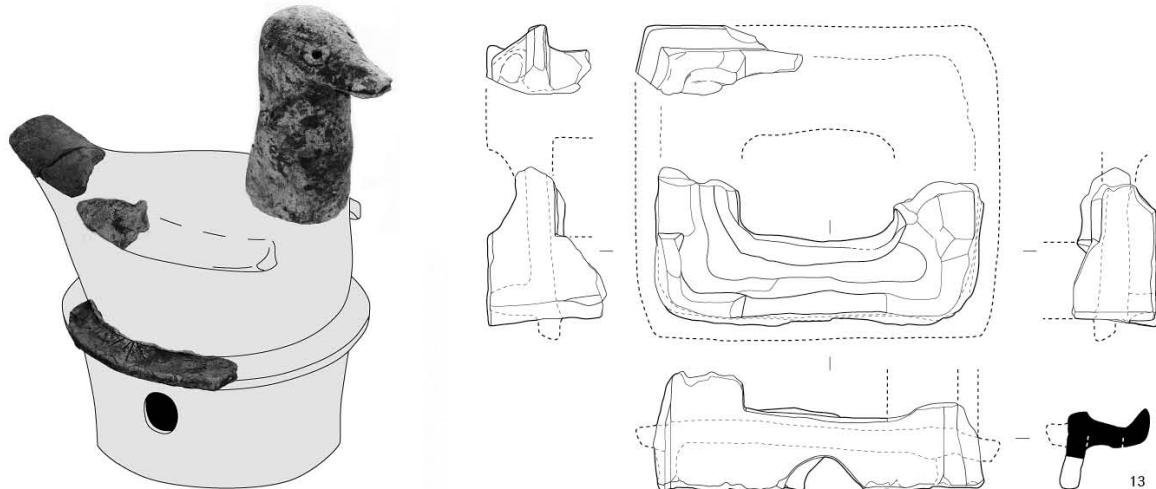
図10 第11次調査第5区（前方部南東）(1/100)

10

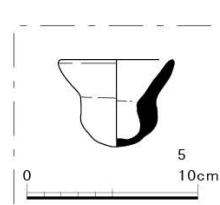
4. 造り出しの出土遺物



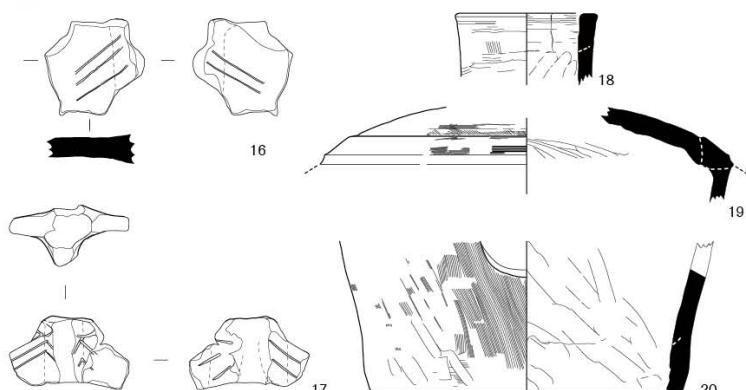
△ 東側造り出しの水鳥形埴輪 (17cm) (第 11 次調査)



△ 水鳥形埴輪の復原図



△ 西側造り出しのミニチュア壺 (1/4) (第 6 次調査)



△ 西側造り出しの家形埴輪・蓋形埴輪 (1/6) (第 6 次調査)

図 10 近年の発掘調査で出土した恵解山古墳の遺物

5. 副葬品埋納施設に関する新たな知見

- ・**発見**：第3次調査（昭和55年）、史跡指定の契機
- ・**位置**：前方部頂部のほぼ中央、古墳主軸と一致
- ・**土坑に組まれた木櫃**（土坑との隙間に粘土を充填、小口に粘土）
- ・**木櫃の規模**：長さ約6.5m、幅0.9m、現存深さ0.2m
- ・**副葬品の埋納状況**：約700点の鉄器が出土
 - 上層（鉄鎌472・短剣52・短刀1・刀子10・三叉ヤス5）
 - 下層（直刀146・剣11を6群に配置）

- ・**ミニチュアの農工具、石製模造品の発見**：既知施設以外にも埋納施設が存在？鉄器の大量副葬など古市・百舌鳥古墳群との類似性

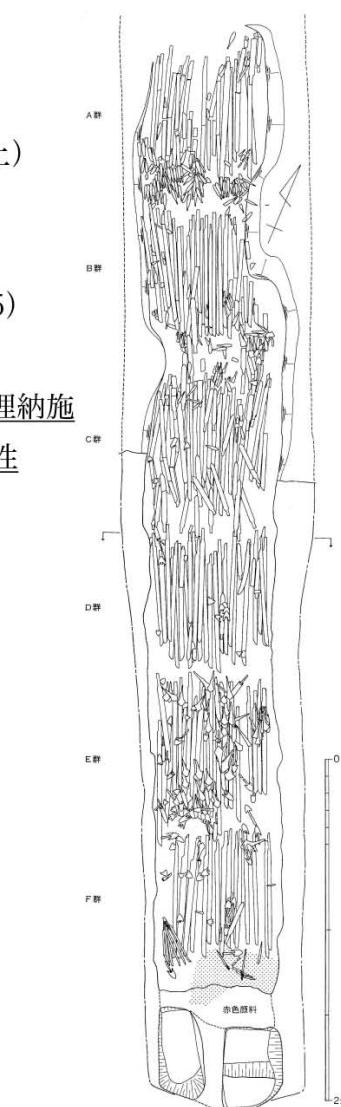
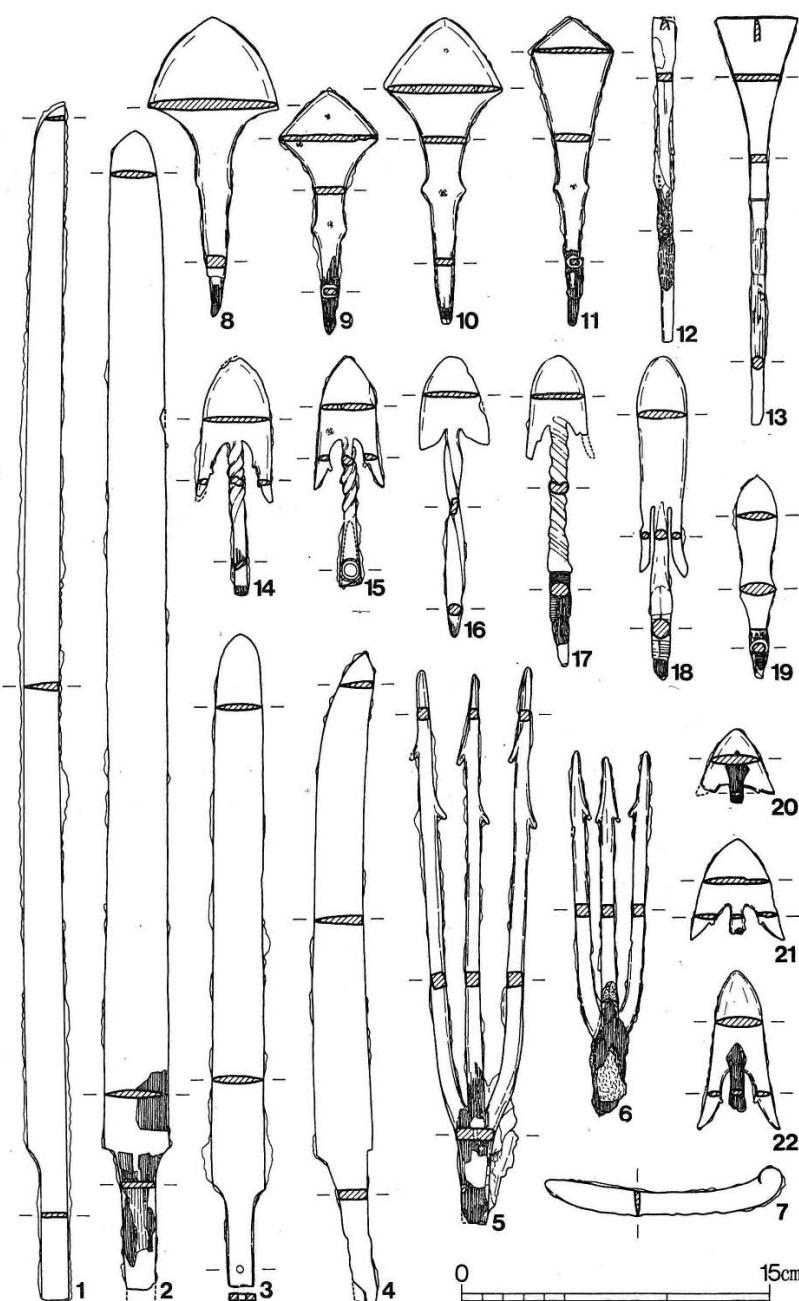


図11 副葬品埋納施設(1/40)

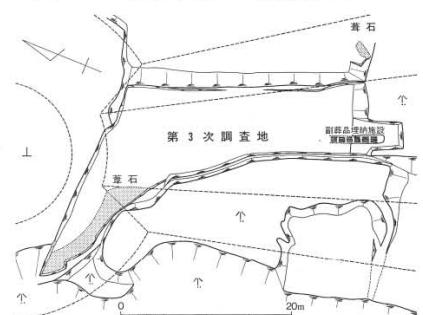


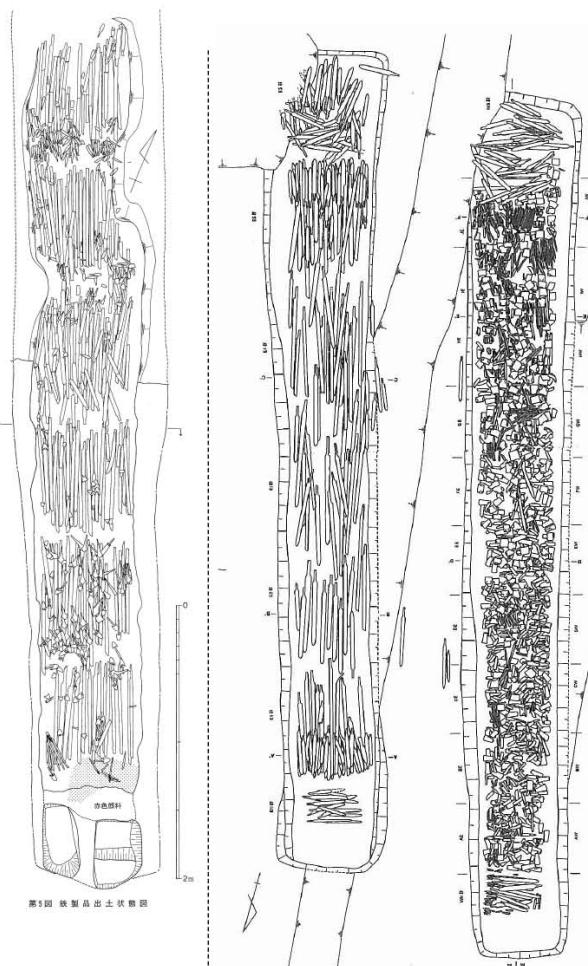
図12 副葬品埋納施設の位置

1-鉄刀、2-鉄剣、3-短剣、
4-短刀、5・6-ヤス状鉄製品、
7-蕨手刀子、8～22-鉄鎌

図13 副葬品埋納施設の鉄器
(1/3)

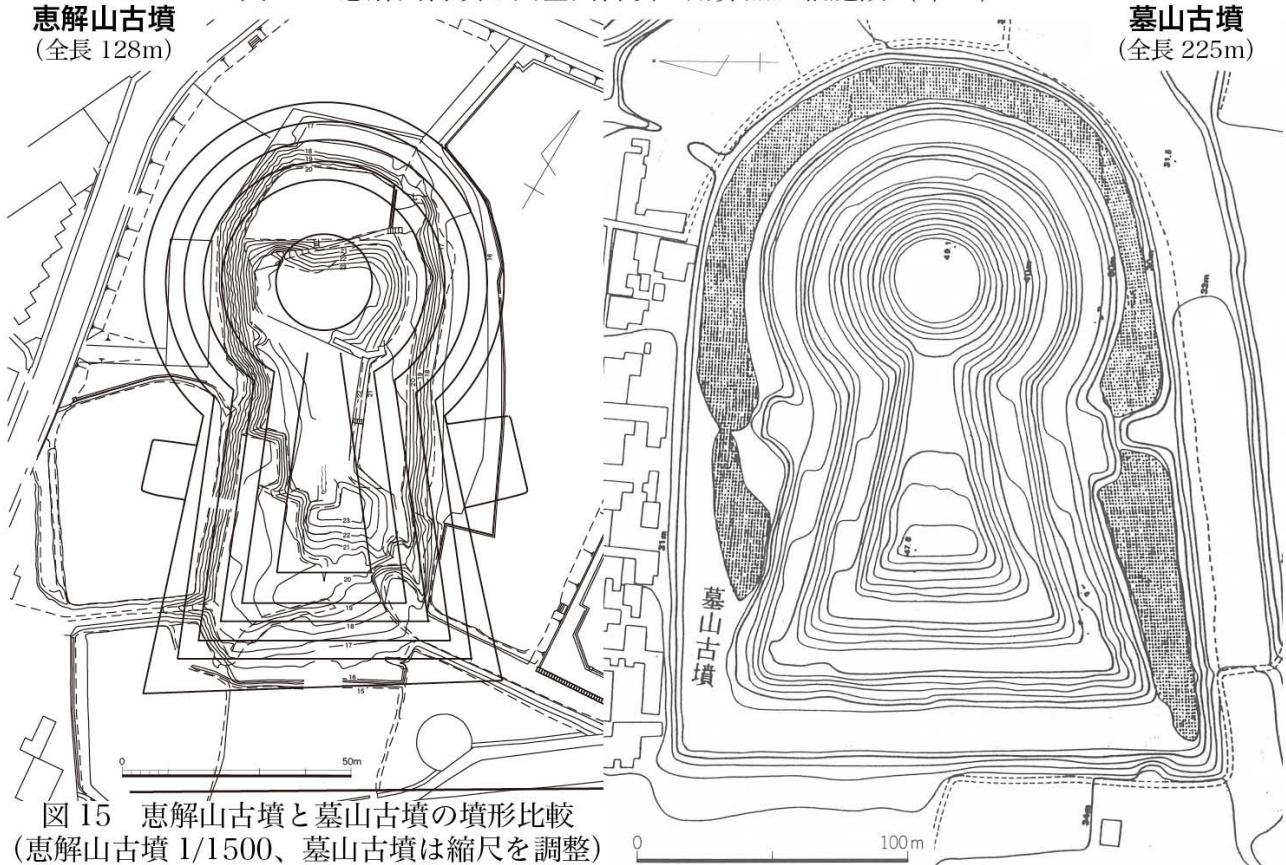
恵解山古墳

- ・全長 128 m の前方後方墳
- ・木櫃の規模：長さ約 6.5 m 幅 0.9 m 深さ 0.2 m
- ・埋納状況：約 700 点の鉄器が出土
上層（鉄鎌・短剣・短刀・刀子・三叉ヤス）
下層（直刀・剣を 6 群に配置）
- ・ミニチュアの農工具、石製模造品の発見。既知の施設以外にも埋納施設が存在？

**西墓山古墳**

- (大阪府羽曳野市)
- ・一辺 18 m の方墳
 - ・主体部なし
 - ・葺石と埴輪列
 - ・木櫃：古墳の中央部に 2 基の木櫃
 - ・木櫃の規模：(東西とも)
長さ約 6 m、幅 0.6 m
 - ・副葬品の埋納状況：
(東) 刀や剣など 200 点以上の武器
(西) 鍬や鎌、ヤリガンナなど 2000 点以上の農工具、滑石製模造品
 - ・墓山古墳（全長 225 m の前方後円墳、古市古墳群で 5 番目の規模）の陪塚

図 14 恵解山古墳と西墓山古墳の副葬品埋納施設 (1/50)

**恵解山古墳
(全長 128m)****墓山古墳
(全長 225m)**図 15 恵解山古墳と墓山古墳の墳形比較
(恵解山古墳 1/1500、墓山古墳は縮尺を調整)